

氏名	か 甲 い 斐 むつ 睦 のり 教	職名	教授	就任年月	2018年（平成30年）4月
【学歴】	1977年（昭和52年）3月 2017年（平成29年）9月	東京大学教養学部教養学科国際関係論分科卒業 ロンドン大学東洋アフリカ研究学院歴史学部修士課程修了			
【取得学位】	1977年（昭和52年）3月 2017年（平成29年）12月	東京大学教養学士（国際関係論） ロンドン大学人文修士（歴史）			
【職歴】	1977年（昭和52年）～1983年（昭和58年） 1983年（昭和58年）～2014年（平成26年） 2014年（平成26年）～2016年（平成28年）	海外経済協力基金（現在国際協力機構JICA）に勤務 宮崎県庁に勤務 日本赤十字社宮崎県支部に勤務			
【専門分野】	1 地方自治 2 日英関係史 3 発展途上国の開発と援助				
【研究課題】	1 地方自治の現状と課題 2 明治時代の日英関係史 3 現在の南北問題と開発援助				
【担当科目】	1 地方自治論（分離と自治） 2 地方経営論（まちづくり）				
【学会・社会活動】	1 所属学会 日本地方自治学会、史学会 2 社会活動 （1）身近な行政である宮崎県庁及び宮崎県内の市町村の行政内容や開発計画について分析し、県や市町村の担当者と意見交換を行いたい。 （2）留学中の研究課題であり1902年に締結された日英同盟及びその中核的役割を担った宮崎県日南市出身の外交官小村寿太郎侯について、講演や投稿により研究成果を広く紹介していきたい。				

【その他の業績】

大学卒業後、イギリス留学を除いて職業人としての生活を送ってきたので、その経験をこれからの教育活動や学術分野に活かしたいと考えている。これまでの経験を項目ごとにまとめれば以下のようである。

1 地方行政実務の研究と紹介

31年間に亘り宮崎県庁に勤務し、その間に中山間地域対策、交通体系改善、中小企業支援、貿易促進、観光振興、防災及び危機管理、国際会議の誘致や運営等々多くの業務を体験した。さらにこれらの業務を通して国や市町村の業務や実態も学んだ。これらの経験を通して地方自治を理論及び実態の両面から研究を深め、また学生達に伝えていきたい。

2 留学における日英関係史研究の継続

平成28年8月から1年間ロンドン大学に留学し、修士論文では宮崎県出身の明治の外交官小村寿太郎が重要な役割を担った日英同盟の成立過程について取り組んだ。この研究を通して幕末以降の日英関係史及び小村寿太郎の実績の理解を深めたので、今後はこの分野でもさらに研究を継続していきたい。

3 赤十字活動の理解と防災実務の普及啓発

平成25年4月から3年間日本赤十字社宮崎県支部に勤務したことにより、赤十字の歴史を学び、防災や人権擁護活動に従事した。この経験を基に人権活動や防災についてさらに理解を深め伝えていきたい。

4 地方による発展途上国への経済協力の調査研究

大学卒業後6年間、政府の経済協力機関である海外経済協力基金(現在は国際協力機構 JICA と統合)に勤務したので、学術的な視点から南北問題や地方自治体の国際協力について考察し、紹介していきたい。